事務局より－寄贈絵画と記念館の入館者数－

宮　英司

1. 寄贈絵画

令和 6 年 4 月 26 日（金）高知市朝倉の伊野部晋利（いのべ・のぶとし）様から寺田寅彦作の洋画をご寄贈いただきました。大きな額入りで、素人目にも劣化が少なく、大切に受け継がれて来たことがよく分かります。

その晩に役員の方へ「この絵をいただきました」と写真を送信したところ、ほぼ同時刻に名古屋の副会長・山田様と徳島の幹事・四宮様から『寺田寅彦画集』によると、「この作品は「二階より（B）」に間違いない」（制作は大正 10 年 10 月）とのご連絡をいただきました。

寺田寅彦の絵画　「二階より（B）」
（竪 37.0×横 44.6 ㎝）

大正 8 年 12 月に胃潰瘍のため吐血した寺田は、2 年近く自宅で静養したのですが、回復期の大正 10 年には身近な題材から郊外風景まで、かなりの絵を描いています。寄贈の絵は東京・本郷曙町の自宅 2 階から南西を望んだもので、博士の油絵の中でも傑作の一つとされる「二階より（A）」（大正 10 年 4 月）に続いて描かれたものです。

この（A）はカラーで画集の巻頭を飾っています。実景では遠くにある洋館を前に引き寄せて絵を構成しており“16 世紀”という謎の命名の後、親交の深かった小宮豊隆に贈られたとのことです。（B）もほとんど同じ構図ですが、季節が春から秋に変わっています。

伊野部晋利様は、寺田博士の実姉・寺田幸様の曾孫であり、お住まいは朝倉本町です。あの随筆「龍舌蘭」に登場する「河野の義さん」のお邸です。あえて「友の会」へご寄贈くださったのは、前年の暮れに親類が記念館を訪問して話題になったこと。そして、寺田寅彦の朝ドラ化の運動を進めていることに気づいた点などがきっかけとのことです。

初めての一般公開については、湿度や温度管理を考慮して 10 月 1 日から 11 月 30 日までとしました。10 月 3 日（木）の高知新聞に写真入りで紹介されたため、記事を見た方の訪問が多く、できれば春と秋の年間 2 回くらいの展示を継続したいと考えています。

2．寺田寅彦記念館入館者数 13 万人

民権・文化財課に問い合わせをして入館者数を調べていただきました。開館は昭和 59 年ですが、平成 6 年度から入館者記録が残っており、ピークは平成 9 年度の 8,774 人でした。本四連絡橋 3 ルートの開通（昭和 63 年～平成 11 年）が後押しとなって平成の前半は最も少ない 15 年度でも 5,521 人もの入館者数を誇ります。平成の後半になって減少傾向となり 31 年度は 2,432 人となりました。令和はコロナの影響で 2 年度が 1,277 人で底を打ちます。やや増えた 5 年度も 1,894 人という状況です。それくらいコロナ禍の影響は大きかった訳ですが、教科書で「寺田寅彦作品」を学んだ世代の高齢化も原因の一つかもしれません。

なお、10 月 25 日（金）にはこれまでの入館者数が 13 万人の大台に到達しました。夕刻に相次いで 3 人の入館がありました。3 人へ随筆集等を記念品として贈呈しました。そのうちのお一人が油絵をご寄贈くださった伊野部様の姪御さんでした。不思議なご縁にご本人も驚かれていました。10 月 1 日～11 月 30 日の寄贈絵画展示中は 2 か月間で 438 名の入館者数となりました。